第48次　教育県民大行動「討論集会」提案資料

「子供の時間の使い方に関する」アンケート調査から

山梨県PTA協議会・企画委員会　平山　裕海

Ⅰ．はじめに

『ゆとり教育』の見直しが行われ、小学校においては平成 23 年 4 月から、また中学校においては、平成 24 年 4 月から新学習指導要領が全面実施されます。

平成 23 年度山梨県PTA協議会企画委員会においては、この様な教育環境の変化の大きい今日にあって、子どもたちは日常の時間をどう過ごしているのか、また保護者は、子どもたちの時間の使い方について、どのように考えているのかを調査することといたしました。

Ⅱ．調査の概要

（1）　対象者

山梨県内小中学校で企画委員が在籍する小学校 5 年生 390 名、及び中学校 2 年生 673 名並びのその保護者を対象として、アンケート調査を実施しました。

（2）　実施期間

平成 23 年 9 月 12 日から 9 月 27 日までのある一日及び一週間（アンケート実施校の都合に合わせ任意に選定していただきました。）について調査を実施しました。

（3）　回収状況

小学校 5 年生 382/390 名（97.9%）、中学校 2 年生 565/673 名（83.9%）、全体で 947/1,063 名（89.0%）から、回答をいただきました。

Ⅲ．質問の内容と詳細及び集計

設問は 7 項目 36 問で、回答はすべて四択といたしました。

質問の内容は、①睡眠時間、②朝食の時間、③夕食の時間、④ある一日の余暇の時間の過ごし方、⑤一週間に習い事に使う時間、⑥子どもの勉強時間の現状に対する考え及び今後の意向、⑦子どもの余暇の時間の過ごし方の現状に対する考え及び今後の意向についてで、上記の設問のうち、①～⑤までは子どもに、⑥～⑦については、子どもの回答を見た上で、保護者の方にそれぞれ回答していただきました。

質問の詳細については、別紙 1 をご参照ください。

なお、集計に際し、無回答であったものの取り扱いは、設問 1-9 については、

一番時間の短い回答に、設問 10、11 は、「わからない」に含めて数値を算定しております。

Ⅳ. アンケート結果の考察

（1） 小学生

a. 睡眠時間

・ 80%程度が8時間以上確保できていました。

b. 朝食

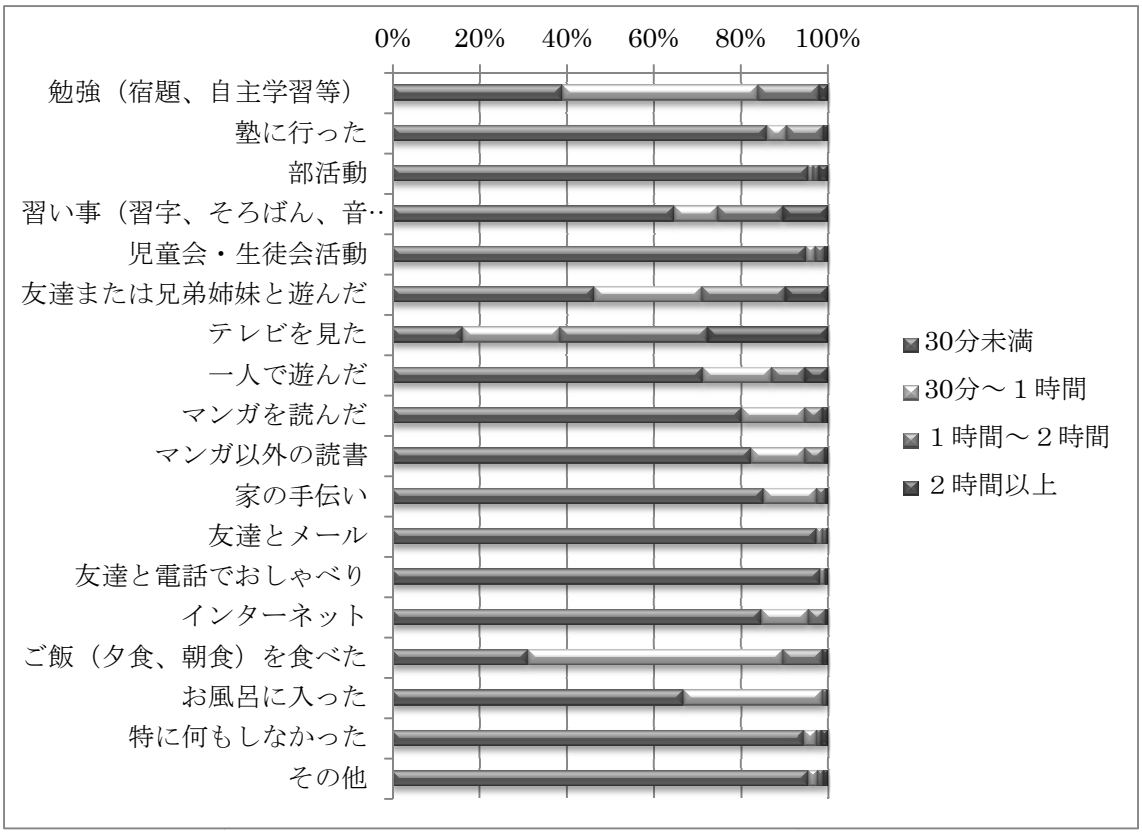
・ 「朝食を食べない子」が問題視されているが、ほぼ朝食を食べているという回答でした。

・ 「家族で」、「親と一緒に」を合わせて 67%であり、3 人に 2 人は、親と一緒に朝食を食べていることがうかがえます。

c. 夕食

・ 「家族で」、「親と一緒に」を合わせて 90%超であり、10 人に 9 人は、親と一緒に夕食を食べていることがうかがえます。

・ １日の余暇の時間



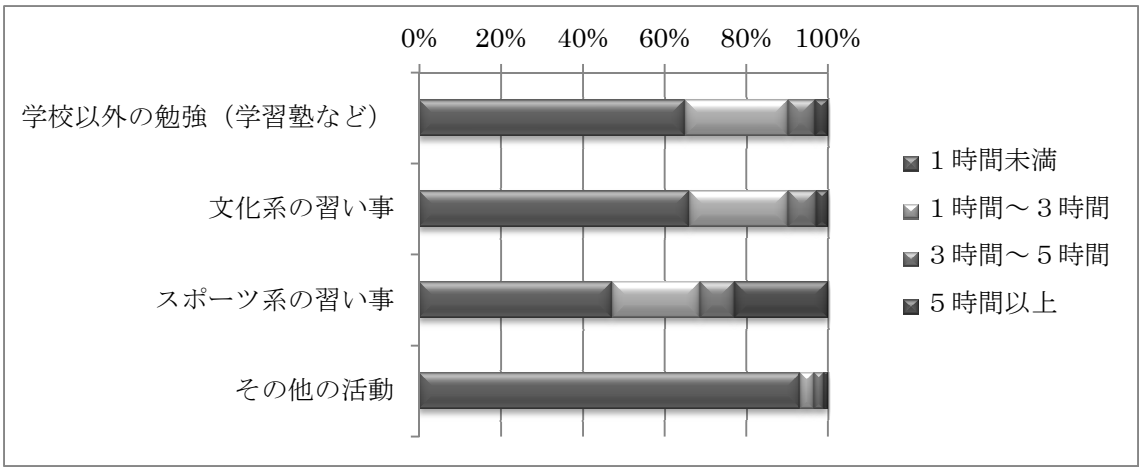
グラフ 1 小学生の余暇の時間の使い方

・ 多いもの（「1 時間以上」の回答比率）

テレビ 62%、友達との遊び 29%、習い事 25%、家庭学習 16%、

・ 少ないもの（「30 分未満」）
友達との電話 98%、メール 97%、部活動 96%、児童会活動 95%、インターネット 85%、家の手伝い 85%、読書 82%、マンガ 80%

d. 週の習い事の時間



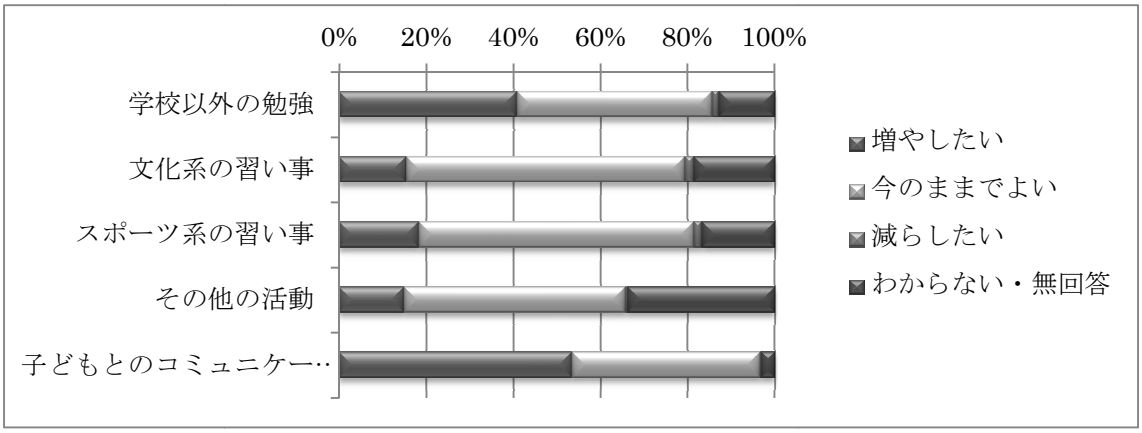
グラフ 2 小学生の週の習い事の時間

・ 多いもの（3 時間以上）
スポーツ系の習い事 31%、学校以外での勉強 10%、文化系の習い事 10%

e. 子どもの勉強時間についての保護者の考え

・ 現状については、「丁度よい」 36%、「少ないと思う」 56%
・ 今後については、「増やしたい」 44%、「今のまま」 40%

f. 今後増やしていきたい子どもの余暇の時間についての保護者の考え



グラフ 3 （小学生）余暇の時間で増やしたいもの

・　子どもとのコミュニケーションの時間が最も多く53%
・　次いで、学校以外での勉強時間 41%

（2）　中学生

g.　睡眠時間

・　8 時間以上が 30%程度、平均 7 時間以上の睡眠時間と推察されます。

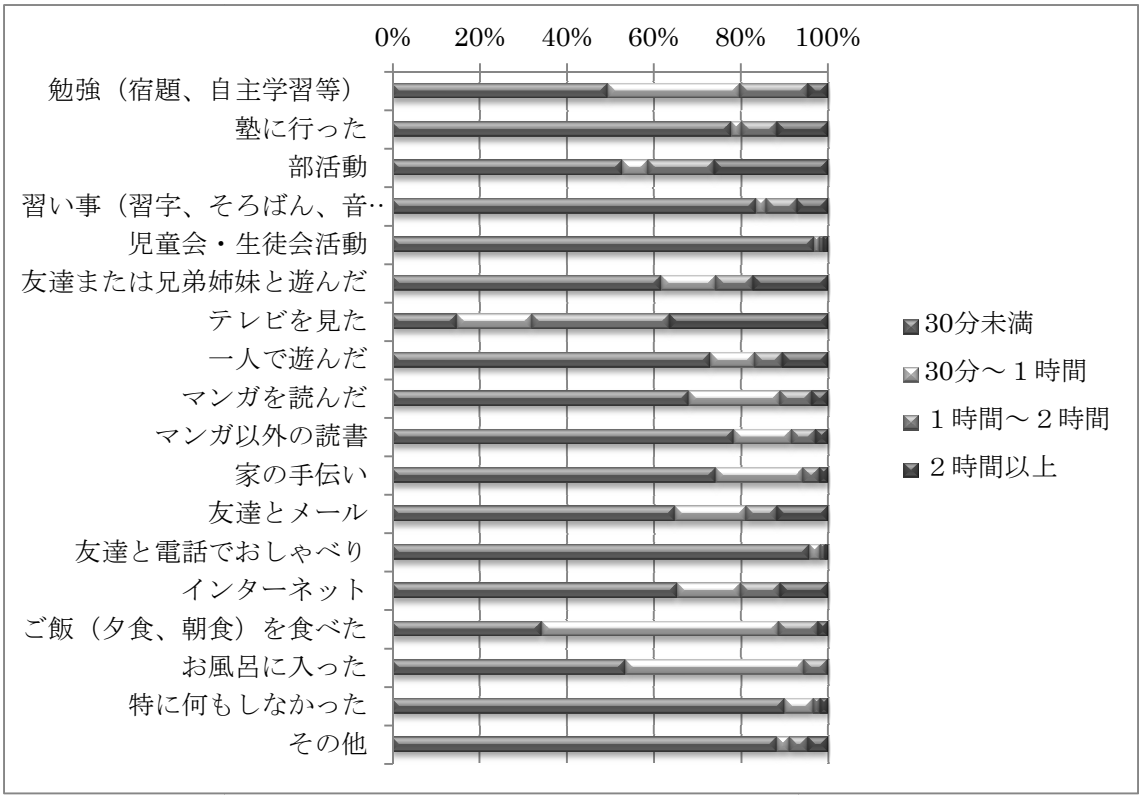
h.　朝食

・　「朝食を食べなかった」という回答は 2%でした。
・　「家族で」、「親と一緒に」を合わせて 50%であり、小学生に比べると親と一緒に食べる比率は少ない傾向です。部活動の朝練の影響か？

i.　夕食

・　「家族で」、「親と一緒に」を合わせて 88%であり、小学生と差のない結果となった。子どもとのコミュニケーションを図る上では、夕食の時間が大切だと思われます。

j.　1日の余暇の時間

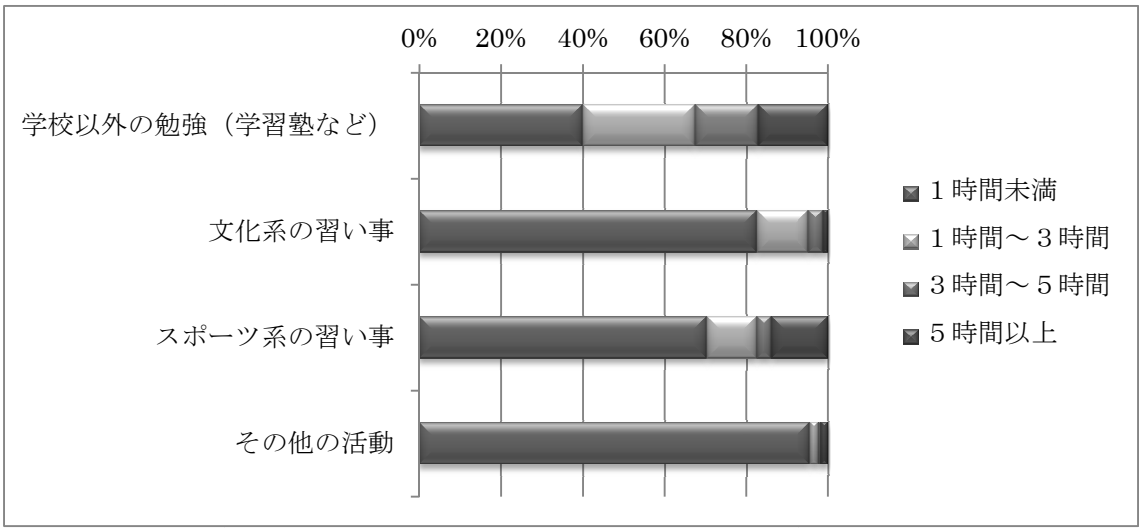


グラフ 4　中学生の余暇の時間の使い方

・　多いもの（1 時間以上）
テレビ 68%、部活動 41%、友達との遊び 26%、塾 20%、家庭学習 20%、インターネット 20%、メール 19%、一人で遊んだ 17%

・ 少ないもの（30 分未満）
生徒会活動 97%、友達との電話 96%、習い事 83%、読書 78%、塾 77%、家の手伝い 74%、一人で遊び 73%、マンガ 68%

k. 週の習い事の時間

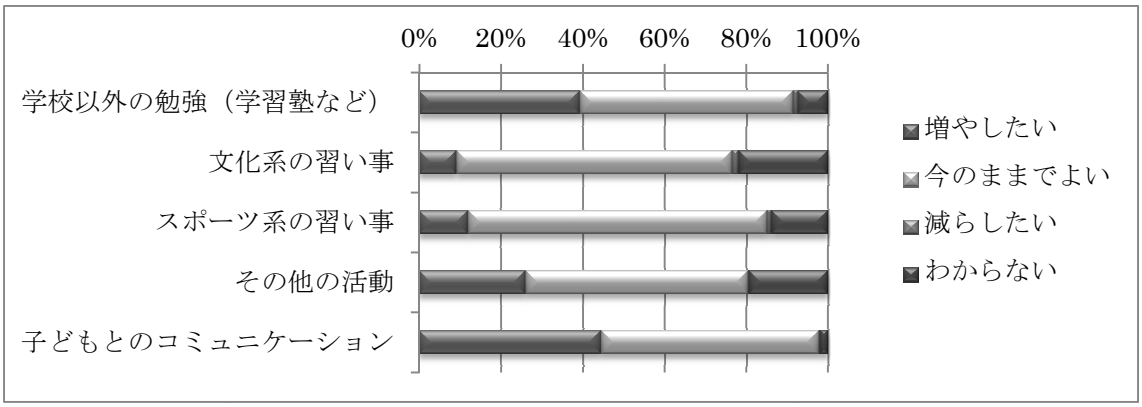


グラフ 5 中学生の週の習い事の時間

・ 多いもの（3 時間以上）
学校以外での勉強 33%、スポーツ系の習い事 18%

l. 子どもの勉強時間についての保護者の考え
・ 現状を「少ないと思う」 73%、「丁度よい」 23%
・ 今後については、「増やしたい」 45%、「今のままでよい」 43%と拮抗している。
・ 限られた時間の中では仕方がない、と考えているか、あるいは学校での授業時間の増加を評価しているもの、と推察される。

m. 今後増やしていきたい子どもの余暇の時間についての保護者の考え



グラフ 6（中学生）余暇の時間で増やしたいもの

- 子どもとのコミュニケーションの時間が最も多く44%
- 次いで学校以外での勉強時間 39%

Ⅴ. 対応策

本調査のメインのテーマである余暇の時間の過ごし方については、概していえば一日 24 時間のうち、学校にいる 8 時間、睡眠時間の 8 時間、朝夕の食事 1 時間、入浴時間 30 分から 1 時間を除いた残りの 6 時間から 7 時間を各自、各家庭の判断でどのように過ごしているのかを調査したものといえます。

この限られた時間を有効に活用するためには、時間管理を親子で意識的に実践する必要があるものと考えます。

（1） 伊那市立富県小学校PTAの取り組み

a. 問題意識

（ア） テレビ、ゲームの時間が増加している。

（イ） コミュニケーション時間が減っている。

（ウ） 子どもたちの体力、運動能力が低下している。

b. それまでの時間の使い方

- テレビ 1-2 時間 40%, 2-3 時間 30%
- ゲーム 0-1 時間 70%, 1-2 時間 20%

c. 対応

平成 19 年度から「ノーテレビ、ノーゲームデー」への取り組みを開始。

- ゲーム、テレビを消す日を作る（各家庭の判断で、週1日からスタート）
- 夕食時にテレビを消す。
- 対話、読書、手伝いの時間を増やす。

d. 効果（子どもの感想）

（ア）よかったこと

・　家族と交流が増えた
・　会話が増えた
・　本を読む時間が増えた

（イ）悪かったこと

・　嫌になるほど、手伝いさせられた。
・　空いた時間に何をやったらいいかわからない。テレビ、ゲームの代わりに何をするのか？　一緒に考え、代案を考える。

（2）我が家のルールを作る

・　テレビ、ゲーム、インターネット、携帯電話の時間をしっかりコントロールする。
・　子供任せにしない。
・　話し合いの上で、ルールを決めて文書化し、誓約書にする。（学校で、クラスで、家庭で）

（3）子供との時間を共有する

・　学校の授業では得られないことについて、各家庭で体験的に学ばせる。
・　合わせて、コミュニケーションの時間の増加を図る。

Ⅵ.　まとめ

子どもたちの時間管理を効果的に実践するためには、何より、保護者が子供たちのことに無関心であってはなりません。

かく言う私も、「うちでも子どもが何をやっているのか、どう時間を使っているのか、しっかり見てこなかったなぁ。」と改めて反省しているところです。

社会生態学者のP・F・ドラッカーは、名著『経営者の条件』のなかで、「時間がどこに消えたかを認識しない限り、時間を管理することは望めない」と言っています。

また、アリストテレスは、「人の本質は、繰り返し行うことの中にこそある。優秀さとは、一つの行為ではなく、習慣なのである。」といっております。これは、習慣の重要性を説いた言葉です。

自分が何をするのか、どのように実行するのか、それによって自分の資質は決まります。良い習慣を身につけることが何より大切です。

まずは、各ご家庭で子供たちだけではなく、親子それぞれが、日常、どのように時間を使っているのかを定量的に把握して、その中で反省すべき点や、改善すべき時

間の使い方について、話し合っていただきたいと思います。
　１日 24 時間は、誰に対しても平等に与えられており、それを有効に使えるかどうかは、自分自身にかかっています。
　何にどれだけ時間を使っているか、使うべきかを把握していれば、バランス良く時間を配分できるようになります。
　そして、親子で、時間の使い方について、計画を立て、実践し、また見直すということを通じて、家族のコミュニケーションの時間の増加が図れるのではないかと考えます。

　最後に、企画委員として、このアンケート調査に携わることができ、この調査を通じて、家庭での教育や保護者の果たすべき役割について、大変考えさせられました。
　調査対象となりました小中学校の児童生徒及び保護者の皆様、並びにお忙しい折にもかかわらず、企画・集計・考察にご助力をいただきました企画委員各位のご協力によりまして、無事、本アンケート調査が終了できましたことを感謝申し上げまして、結びといたします。

　なお、本報告書並びにアンケート調査の詳細なデータにつきましては、山梨県PTA協議会のホームページ（http://www.nasi-pta.net/）に掲載いたしますので、参考にしていただければ幸甚に存じます。